

解答

一

問一 自然界を生きぬくために、生物がそれぞれ独自に身体の高や仕組みを工夫し、発達させること。

問二 エ

問三 ウ

問四 自然界は何の境界もないボーダレスの世界であり、区別して理解するために人間が勝手に分類しているに過ぎないから。

問五 どのように進化するかは自由であり、ミドリムシには動物と植物の特徴を併せ持つことが生きぬくために必要だったから。

問六 A エ B イ C ウ D ア

問七 (ア) 配置 (イ) 器官 (ウ) 余計 (エ) 頂点 (オ) 裁判

問八 イ

二

問一 安

問二 うみかに逆上がりの練習をみていてほしいと素直に言われたことが意外で、自分が必要とされていることにおどろいている。

問三 一 エ 二 ア 三 オ 四 ウ 五 イ

問四 うみかが一人でまだ練習していたわけではなかったので安心するとともに、自分がそれほど必要とされていないように感じてさびしく思っている。

問五 うみかが怪我をしたことにおどろき、見ていてあげなかった自分のせいのように思われて、とまどっている。

問六 「親友」の

問七 A イ B エ C ウ D ア

問八 イ

解説

一

問四

二つ後ろの段落で「自然界は何の境界もないボーダレスの世界」だが、「知能で情報を整理する人間は境界を作って区別しないと理解できないので、線を引いている」「人間が自分たちのために作った分類に過ぎない」と述べられています。

二

問五

「誰かが何かできるようになる瞬間に立ち会うのが、こんなに楽しいとは思わなかった」とあるように、「私」は、うみかの逆上がりの練習と一緒にやることに充実感を感じていました。それなのに、友だちづきあいを優先して妹のことを後回しにしたその日に、うみかが怪我をしたという事態におどろき、自分を責める気持ちを感じたと読み取ることができます。